

第7回江東区都市計画マスタープラン 2022 推進会議【会議録】

開催日時	令和5年 11 月 9 日(木)午後 3 時 00 分		
開催場所	江東区文化センター3階第1, 2研修室		
出席者 (敬称略・順不同)	【委員】 <委員長> 志村 秀明 <委員> 市古 太郎、川内 美彦、柳井 重人、森本 章倫 【区職員】 都市整備部長、都市計画課長、まちづくり推進課長、安全都市づくり課長、 都市交通輸送計画担当課長		
【議題】		【所管】	
(仮称)江東区浸水対応型まちづくりビジョン(素案)について		都市計画課	
【議事概要】			
No	該当資料	委員の意見要旨	区の回答要旨
1	資料 1-2	本ビジョンだけで水害時のオペレーションや避難行動までカバーするのは難しいので、他の計画との分担が必要と考える。	防災課の地域防災計画と連携していく。 本ビジョンは自助・共助を後押しするものであり、避難行動計画や垂直避難先の必要量の設定など公助については、地域防災計画の中で誘導していく必要がある。
2	資料 1-2	要支援者等が広域避難できない場合を想定し、垂直避難先の整備を検討する必要がある。	要支援者の避難については、福祉部門で個別避難計画の作成を進めている。 また、垂直避難先に関しては、防災課が民間マンションの協定により一時避難施設の拡充を進めている。
3	資料 1-2	5ページの図において、一時避難施設等や浸水区域外への避難のタイミングなど、避難のスケジュールがわかりづらい。	本ビジョンでは、概ねの避難スケジュールを示しており、実際は周辺からの救助、応援等が整っていく段階を見計らいながら、段階的に避難ができていくような形を考えている。
4	資料 1-2	5ページの時間軸については、避難指示発令を入れるとよいと思う。タイムスケジュールというよりはタイムラインという表現が適切かと思う。	/

5	資料 1-2	今後、7ページの図にある空白地域の実態を把握するにあたっては、街区によって避難の実距離が異なる点を考慮すべきである。	空白地域の実態を踏まえ検討する。
6	資料 1-2	7ページの図の矢印は、救助ボートなどの往来を指すのか、わかりづらいと思う。	矢印は、救助ボートによる避難者の移送、物資の輸送などを示している。
7	資料 1-2	一時避難施設、浸水対応型建築物、浸水対応型拠点建築物の3つの施設と、①緊急機能、②維持機能、③救助機能の3つの機能の関係について、もう少しわかりやすくするとよい。	一時避難施設は①緊急機能、浸水対応型建築物は①緊急機能及び②維持機能、浸水対応型拠点建築物は①緊急機能、②維持機能及び③救助機能を有することが明確にわかるよう、記載を更新する。
8	資料 1-2	浸水対応型建築物や浸水対応型拠点建築物の間をどのように移動するのか。多くの避難者を救助ボートだけで移送するのは難しいと思う。	水路の救助ボートはじめ空路や陸路により、一時避難施設や浸水対応型建築物から小・中学校や公共施設などの浸水対応型拠点建築物に避難する形を考えている。
9	資料 1-2	電動車イスには200キロを超えるものもあり、階段を担いであげるのは難しい場合がある。そのため、できる限りスロープを設置するか、備蓄に車イスを用意する必要がある。	要支援者の避難については、福祉部門で個別避難計画の作成を進めているので、そちらとも連携を図る。
10	資料 1-2	2040年を目標年次としているので、「ヘリ」だけでなく「ドローン」なども可能性があると考える。	
11	資料 1-2	都市計画法に基づく一団地の都市安全確保拠点施設の枠組みなど、事業手法を活用していくのは大事なポイントと考える。	
12	資料 1-2	12ページにあるように、レジリエンス関連の取組みが多く盛り込まれたと思う。防災課と連携しながら、本ビジョンで目指すべきことをきちんと示して欲しい。色々な用語があるので、わかりやすい表現として欲しい。	
13	資料 1-2	16ページのコラムにある防災テラスは、日常的な使い方、過ごし方の視点からもプラスになると考える。	平常時については、10ページでも示しているように、賑わいや交通ネットワークなどの形成を考えている。